



《印象的な言葉》

- ・結に専念すれば、果が生まれ、果に専念すれば、苦が生まれる
- ・任して、任せず
- ・決断するためには、根拠が必要
- ・生きた情報を基にシミュレーションする
- ・①方針を打ち出す②組織として機能③選手の意識改革とコミュニケーション④ファンへのミッション

《記念講演についてのご意見・ご感想》

○一番印象に残ったのは、「結に専念すれば、果が生まれ、果に専念すれば、苦が生まれる」という言葉である。どちらかというと、結果ばかりに目が向き、問題や大変さの原因を探ってしまうことが多い。また、「単純なミス」は、準備ができていないことから対応ができずに生じることが多いというのは、我々の職業も同じだと感じた。野球では、「単純なミス」を怠慢プレーと言われていた。学校では怠慢とまでは言われないが、適切な準備ができていないことは多々ある。準備の大切さを痛感するとともに、一生懸命に取り組むというのは、気持ちの問題だけでなく、技術や技能、課題に対する見通しなどに力を注ぐことであると感じた。野球と我々の職業は、共通点がないように感じていたが、突き詰めればどの仕事も同じであること。そして、トップをとった方の考え方ややり方には、惹かれることが多くあると感じた。

○緒方さんのプロ野球監督時代の経験をもとに話していただいたが、十分校内でも生かしていけることであり、参考となった。コーチに対して「任して、任せず」との言葉のように、どのように任せるのか、任せているときの様子を観察するなど適時適切な助言を怠らないということは大事だと感じた。また、ミドルリーダーの育成とよく言われる。緒方さんは、トップの考えを理解するよう監督のそばにしているようにしていたそうだが、逆に考えると、ミドルリーダーへ考えを伝えることや共通理解することが大切であると思う。校長、教頭、総括教諭、学年主任…としっかり共通理解できるシステムやコミュニケーションをとれる環境を校内で築いていきたい。

○緒方さんのコーチ時代を学年主任や分掌主任、ヘッドコーチ時代を教頭、監督時代を校長に置きかえて、組織を機能させるための具体的な実践として話を聞くことができました。出会いから得た感覚、松下幸之助の言葉と相まって、心にビシバシと伝わってくるものがありました。教師の全力を子供達は瞬時に見抜く感覚の鋭さを持っています。だからこそ、手ぬきはできないと感じます。同時に、管理職として、自校の教員の役割を明確にし、情報交換をしながら組織として同じ目標に向かっていけるような心ある組織をつくるのが大切であると感じました。

○チームが目指すべき「ビジョン」を全員で共有し、組織として役割を分担し、それぞれの役割を認識した係がアイデアを出しながら対応すること。「任して、任せず」の言葉が心に残った。また、問題が起きた時に、精神論ではなく、何が問題なのかを明らかにすること。ミスが起きた原因と、それに対する準備をしっかりと分析して次に生かすこと。「結に専念すれば果が生まれ、果に専念すれば苦が生まれる」の言葉を知り、自分自身の心に刻んだ。現在の自分の職務に置き換えた時、まだまだ未熟な部分に自分自身気づくことができた。いただいた2つの言葉を心に問い続けながら、過ごしていきたいと思った。

○具体的な改革の手立て、心に残る言葉など、実践を積まれた方からの熱いメッセージをいただいた。自分の役割は何かを常に自覚すること、その役割を果たすこと、一人一人が全力で取り組むことが最高のマネジメントにつながると学んだ。優勝の先に見える景色と負けて知る学びの両方が大切であることを経験から語られ、納得できた。素晴らしい記念講演を有り難うございました。

○少数の花形選手に頼るのではなく、トレーナーやスコアラーも交えた組織力・チーム力で成し遂げたリーグ3連覇という結果は、組織マネジメントの重要性を端的に表していると感じました。「任して任せず」「事業の原点は～」といったキーワードは、そのまま学校現場にも当てはまるものと思います。また、2年目の初めに打ち出した4つの方向性も、マネジメントの基礎であるといえます。先行き不透明なこの時代において、子どもたちに確実に力をつけ、保護者や地域、学校職員の力を最大限に生かしていきたいと感じています。

○自校の教職員組織の中で、資質や教育意欲が極端に低い者や、感情の起伏が大きい者等がおり、本年度の組織力の低下に気が下がっていたが、本日の講演を聞いて、元気が出た。①教頭として、まだやることがある②校長の思いをもっと聞いて、進む方向を再確認して、再度、再編を試みる必要がある③自分自身が諦めないで、「子どもたちのために」という原点に戻って再スタートを切る必要があるなど、前向き

な言葉にやる気が出ました。感謝申し上げます。本実行委員会の皆様の人選や準備にも感謝いたします。

○緒方氏の講演を聴いて、どの仕事であっても組織で動くこと、組織を機能させることの大切さを改めて感じました。緒方さんが監督として組織をマネジメントされる考え方や方法などは、私たち教職員にもそのまま当てはまると思います。校長（監督）の学校運営や学校目標の達成に向け、教頭（コーチ、トレーナー、スコアラー）は校長の考えを理解し、教職員や児童生徒（選手・ファン）とのパイプ役としてアンテナを高く張り、校長が必要とすることへの的確な対応を行うこと。また教職員へのアドバイスやサポート、若手教員の育成等々、仕事は違っていても取り組んでいることや考え方などは同じで、とても理解しやすく、参考になるお話でした。

○緒方様のご経験に基づく組織マネジメントのお話を大変興味深く拝聴しました。目標の達成に向けた方針を明確にし、本気、真剣に情熱をもって仕事に向かうこと、より良い結果を得るためには取組の過程を大切に、工夫、実践、評価、改善をすること、人材の育成においては、行動の結果を生んだ過程に着目し寧ろ分析を行い改善につなげる思考を活性化させる指導が有効であることなど、組織の機能を向上させるための手立てについて沢山のご示唆をいただきました。有り難うございました。

○選手と教員の違いはあるが、トップを担う立場として、意識しなければならないことは共通しているなと感じた。教員の士気を高め、同じ方向を向かせること、その仕組みづくりを管理職が行うことが大事である。その時何をしなければならないのか、状況に応じた言動を考え、実践することが実になるということが改めて確認できた。やはり冷静に分析することは大事で、データに裏付けられたものは説得力も生まれる。自分も管理職として様々な分析を行い、教員を束ね、生徒の満足度を高めていく。

○組織づくりのヒントをたくさん学ぶことができた。チームづくりと学校の組織づくりは共通しているものがたくさんある。経営の方針、学校でいうと学校長が示された教育目標の実現を目指すためには、教頭が教育目標を理解し、職員に明確に伝えていくこと、学校の課題を把握し、職員の強みを生かしてよりよい教育活動を図っていくことが教頭としての大切な役割である。改めて教頭の在り方を考える機会となった。

○組織としてプロ野球チームと学校現場を比較したとき、監督は「管理職」、コーチやスタッフは「担任等教員」、選手は「児童・生徒」、ファンは「保護者」として捉え、そこに落とし込んでみると緒方さんのエピソード一つ一つが日頃の私の管理職としての悩みに通ずるものが多く、記念講演を興味深く拝聴することができました。緒方さんの組織マネジメントは、教頭職である私達に、組織運営上のリーダーとしての確かなキーセンテンスを授けてくれたように感じます。特に「『結』を重んじれば『果』が生じる。『果』を重んじれば『苦』が生じる」という言葉は、私達の日頃の目標達成に向けた心構えを正し、今後の学校運営に際してリーダーとしてどうマネジメントすべきかという命題の本核に直接訴えかける重みのある言葉として受け取りました。どんな組織の中でもリーダーとして他者の心を動かす原動力は、本気に真剣に組織のより良い方向性を視野に入れ、強い信念のもと発する「言動と思い」だと強く共感できました。

○組織を動かすということは、まずはリーダーの方針をみんなが共有していくことが大切であると感じた。学校でいう学校目標について職員がよく理解し、常にそこに立ち返り1年間を進めていかななくてはならない。そのためにも、職員が計画するものについて、前年度と同じではなく、学校目標に合致しているか常に確認しながら進めていくように教頭として職員に問いかけていくようにしていきたい。また、新井選手の「大ベテランが背中を見せる」という話が大変印象的であった。時代も変わり職員への接し方も「ほめて伸ばす」ようになってきているが、子供たちの大切な人生を預かっている職業である教員は、信念を持ち大切なことを伝えていくベテランの存在も生かして若手の育成に努めていきたいと感じた。

○目標を達成するには、組織的に進めていくことの大切さを学ぶことができた。課題を分析して、「今、何が必要なのか」「何をすればいいのか」みんなが同じ方向で進んでいくこと。目標をもつこと。緒方氏、前広島カープ監督さんの講演を聴いて同感することができた。「生きた情報を基にシミュレーションしておけば、指揮する者が勝負の最大の山場で動揺しない。」という言葉が心に残った。学校で危機の状況になったときにいかに冷静に対応することができるかは、常に準備やシミュレーションをしておくことが大切なことだということと同じ事だと思った。貴重な講話を聞くことができてとてもよかったです。有り難うございました。

○野球にはとても興味があるので、楽しく話を聞くことができた。その中で、個々の選手に力があっても優勝できる訳ではなく、組織が機能しなければいけないという話がとても参考になった。学校も、教職員一人一人が力をもっている、組織として機能しなければ、教育効果を十分に上げることができないと感じている。組織を機能させるために、管理職がしっかりと方針を打ち出し、教職員とのコミュニケーションを図りながら、それぞれの良さを引き出していくことが大切だと思った。また、保護者や地域の方々の思いに応えていくことが、大切だと改めて感じた。これまでの自分の取り組みを振り返り、自分自身の意識改革を進めていきたいと思った。